

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議議事録

と き 令和8年2月13日（金）
午後15時30分から

と ころ 常総市役所 議会棟 2階 大会議室

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議会議録

令和 8 年 2 月 13 日（金）午後 15 時 30 分から第 4 回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を常総市役所議会棟 2 階大会議室に召集する。

会 議 日 程

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 協議・報告事項
 - (1) 常総市総合戦略本文（案）について
 - (2) 国の新しい総合戦略と総合戦略に係る財政・税制優遇措置について
- 4 その他
- 5 閉 会

出席委員	秋田 そら	野村 和叶	鈴木 千彰	中島 義昭	
	岡野 一男	青木 大	荒井 久美	北村 篤子	横島 智子
	前田 正文	川島 宏一	玉置 一真	中山 奈央	
欠席委員	中山 舞香	佐賀ターニャ	鈴木 信也	渡辺 潤子	中山 奈央
事 務 局	市長公室長	小林 弘	政策調整監	斉藤 庸一	常創戦略課長 倉持 勝利
	政策統括室長	前島 淳			

常創戦略課長

本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから、第4回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を開会いたします。本日の司会を務めさせていただきます、常総戦略課政策統括室長の前島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。初めに、お手持ちの資料の確認をさせていただきます。

- ・常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議次第
- ・常総市総合戦略本文（案） 資料1
- ・国の新しい総合戦略と総合戦略に係る財政・税制優遇措置について 資料2

資料が揃っているようですので次に進めさせていただきます。当会議は、常総市まち・ひと・しごと創生創生総合戦略会議設置条例第6条において、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができないと規定されております。本日は佐賀委員、鈴木信也委員、渡辺委員、菊池委員、中山舞香委員より欠席の連絡をいただいております。よって、委員総数18名に対し、本日の出席委員は、Web出席者も含めまして13名ということになりますので、会議が成立いたしますことをご報告させていただきます。なお、本会議については、公開を原則としており会議録を作成いたしますので申し添えます。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず初めに、総合戦略会議の川島会長よりご挨拶をお願いいたします。

会長

皆さん、こんにちは。会長という名はあまり好きではなくて、今日は皆さんと一緒に議論しながら、最後の会議をまとめていきたいと思います。戦略や計画というのは、紙に書かれたものが成果ではなく、実際にそれを動かして実現し、市民や企業の皆さんにどれだけ具体的な価値を届けられるか、という行動に繋がるかが大切だと思います。このこと自体のKPIについては、これまでの議論や、市役所の担当課とのすり合わせの結果として、今日お示しいただけるものが出てきているかと思います。ただし、KPIも総合計画も、通常は5年ほどの期間を見据えて進めるものですが、世の中の変動が激しい中で、特に新しい大学ができたり、経済成長志向の政策が進んでいたり、状況は日々変わっています。また今日ご説明があるかと思いますが高市内閣の新しい総合戦略の発表もありましたし、それに基づいて地方自治体への交付金も出てきます。このため、現在まとめている常総市の総合戦略も、国の戦略との調整をしながら、できるだけ多くの資金を引き寄せたり、関係者のエネルギーを巻き込んだりすることが重要です。

今日の議論は、これから具体的に動かしていくために、どのように役割分担をして進めていくかが重要だと思います。まちづくりは市役所だけではなく、みんなでやることですので、どうぞよろしくお願いします。

常創戦略課長 ありがとうございました。それではここから会長に議長をお願いし、進行をお願いいたします。

会長 協議報告事項に入る前に会議録署名委員を決めさせていただきたいと思います。会議録署名委員につきましては議長において指名させていただいてよろしいでしょうか。

（異議なしの声）

北村委員，青木委員，以上 2 名を指名いたします。よろしくお願いいたします。それでは議事を進めさせていただきます。議事次第 3，協議報告事項（1）基本目標本文（案）について事務局よりご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（事務局 説明）

会長 ありがとうございます。今の説明に対して、質問やご意見など、何でも結構ですので、ご自由にご発言いただきたいと思います。基本的には、前回までのご意見とその後のフォローアップをまとめているということで、皆さんのご意向は大体反映されているかと思います。しかし、国の動きも含め、これからの変化もありますので、年に 1 回はフォローアップのために会議を開催する予定です。今の時点で、お気づきの点や、何かご意見、ご質問などがあれば、ぜひお聞かせいただければと思います。Web でご参加の玉木さん、秋田さんからも、何かあればぜひご発言をお願いいたします。

会長 特に質問はないということでしたが、私から少し意見を述べさせていただきます。実際、この総合戦略に関しては、実施体制や具体的な実行方法についての記載が不足している点が少し気になるところです。確かに、各分野で目標が示されているのはわかりますが、文章だけだと、市役所がすべて実施するような印象を与えかねません。これだと、市民や企業との協働，パートナーシップ

なしでは進められない部分が多く、実際に関係者の合意を得て一緒に取り組んでいくことが重要になります。そのため、今後どのように連携していくのか、また、各担当部署がすでに動き出している部分があるとしても、その具体的なアクションや協力の方法が示されていないと、企業や市民が「一緒にやりましょう」と言われても、具体的に何をどの程度、いつ実施するのかというイメージが湧きづらくなってしまいます。そこで、もう少し実行に移すための体制や、具体的な行動計画が示されると、より協力を得やすくなると思います。各担当部署がすでに動いているのであれば、それを具体的にどのように市民や企業と連携して進めていくのかが見える化されると、さらに具体的な動きが見えてきて、参加を促進しやすくなるのではないのでしょうか。この点について、市としてどのような実行体制を考えているのか、もう少し具体的に教えていただけると助かります。

市長公室長

川島会長からのご質問についてお答えいたします。現在、まち・ひと・しごとの総合戦略を見直しているところですが、確かに実施体制の部分については明記はしてございません。これは長期的な計画であるため、役所の組織や政策が変動することもあり、逐次的な見直しが行われるので、具体的に記載することが難しいというのが現状です。そのため、体制については記載していないという背景があります。ただし、実際にこの戦略を進めるには、担当課だけでは進められません。川島会長が冒頭でおっしゃった通り、市民の方々や企業の方々と連携して進める必要があります。現実的に、この政策の目標に向かって進むためには、役所内部だけでは不十分で、協力が不可欠です。そのため、これから役所内部では横断的な組織チームを構成し、それぞれの課題ごとにプロジェクトチームを立ち上げる予定です。このチームを使って、目標達成に向けてスピード感を持って進めていこうとしています。具体的には、副市長がトップとなり、各部長が責任者として進捗を管理します。複数の担当課がそのチームに参加し、様々な課題をクリアしていくことになります。また、市民や民間企業ともパートナーシップを組み、協力しながら目標達成に向けて進めていく準備をしています。このような体制で進めていくことを準備しており、間もなく実現される予定ですので、ご理解いただければと思います。

会長

ありがとうございます。プロジェクト型の取り組みについて、これまでの縦割り組織にこだわらず、目標やテーマごとにチームを組織するという方針、非常に重要だと思います。その際に、特に企業や農業など、実際に事業を行っている方々のご参加を積極的に呼びかけるのは良い考えだと思います。これまでの議論に精通している方々が、具体的な実務に基づいて参加することで、より

現実的で実効性のある戦略を進められるはずです。組織的には色々な難しさがあるかもしれませんが、各分野の実務経験を持った方々がプロジェクトチームに加わることで、さらに現場に即した有益な意見やアクションが生まれると確信しています。そのため、この点に関しても積極的に進めていただけると、より効果的な結果が得られると思います。それでは、他にお気づきの点があれば、鈴木さん、お願いします。

鈴木委員 いま事務局の意見、方向性を聞かせていただきました。我々の団体では、すでに進行しているテーマがいくつかあり、その中で現状の方向性が合っているか確認したいのですが、その場合の受け皿をどうしたらいいかがまだ見えていないところです。この話は誰に相談して、どういうふうにするかは先ほどの横ぐしの話とも関連してくると思います。市民ではあるけれども、その時点からお仲間になろうという方が何をやりたいか、何が必要なのか、何をやらないとういけないのかはおのずと出てくると思いますので、今の時点で未定であれば未定でも良いのですが、具体化していただけるとありがたいと思います。

会長 すばらしいご発言だと思います。小林さんお願いします。

市長公室長 ご質問ありがとうございます。鈴木さんが活動されている団体の取組みについては、私自身認識しているところであります。石下地区のまちづくりという部分で鈴木さんの団体にはこれからの活躍をいただきたいと思ってます。先ほど私の方で、プロジェクトチーム、そういった横串を入れた連携チームを立ち上げる話をしましたが、石下地区のまちづくりについてもチームを作る予定です。その際には是非とも鈴木さんの活動されている団体、秋田委員も含め、ご参画をいただきたいとすでに考えております。その場合の窓口ですが、当然いま常創戦略課というところで事務局をやっております。こういったチームについては、企画立案的な要素が強いので、常総戦略課のところで、マネジメントというか、進捗管理の方は進めていきたいと考えているところです。

会長 より具体的に言うと、この常総戦略課の未来創生係のところに、メールなり電話をすれば、ご相談や情報共有をさせていただくという理解でよろしいでしょうか。

市長公室長 そうですね。そこにご相談いただけると、そこから担当課につないでいくというようなマネジメントをしたいというふうに考えて

ます。

会長 今日お配りした資料に連絡先が載っていますので、そちらの電話やメールを通じて、ぜひお寄せいただければと思います。とはいえ、基本的に市役所に対して何か意見を言うことに対して、まだ敷居が高いと感じている市民の方や企業の方もいらっしゃるかもしれません。鈴木さんが先駆けとして、どんどんご意見をお寄せいただけるといいなと思っています。市役所側としても、もっと多くの方に参加していただけるよう、入口を広げていってほしいと思いますし、鈴木さんの方でも、同じような活動や、もし他の分野で NPO 的な活動や講師との連携を模索している場合には、『それなら、未来創生系の松永さんに話をすればいいですね』とお伝えいただければ、さらに交流が深まると思いますので、ぜひともご協力をよろしくお願いします。

市長公室長 はい、会長、せっかくの機会ですので、まちひとしごと戦略会議の委員の皆さんを皆さんにやっていただいています。これは一つの出会いであり、ご縁だと考えていますので、ぜひ事務局に対しても気軽にご要望やご意見をお寄せいただければと思います。以上です。

会長 ありがとうございます。その他、何でも結構ですけれども、前田委員いかがですか。

前田委員 来年度以降にどう実行するかと、国の方もすいません。

会長 国の方でも新しく出てくるようですので、それを見極めながら進めていくのが一番良いのかなと思っています。予算面の補助や支援もあるでしょうから、やはりお金を得ることは大きなモチベーションになります。次に、新しい総合戦略の具体的な交付要綱が出てきた際には、具体的な提案を出すという戦略がまた考えられると思います。おそらく、それはこの基本的な総合戦略だけではなく、例えば本田さんとの連携や地域ごとの取り組み、またはスマート農業など、さまざまな事業に関連してくるでしょう。その際に、国の交付要綱が出てきたときにすぐに始めようとしても、時間が足りないので、ある程度予測を立てて、これが出てくるだろうというものを事前に仕込んでおく作業が必要です。たぶん、このような新しい国の戦略の柱として出てくるものの中で、私た

ちに関わる内容があれば、どんどん準備を進めていくべきです。このような施策は、補正予算で出てくることが多いので、数週間以内に発表される可能性があります。スピード感が求められるため、担当課がその時に他の業務で忙しくなってしまうと、取り組みが後手に回ることになりかねません。ですので、今の段階から議論を進めていくことが重要だと思います。実際、プロポーザルの中で、どの企業や地域の NP0 と連携しているかが評価の対象になるので、その連携関係を作るには交付要綱が来てからでは間に合わないと思います。既にネットワークをお持ちの方も多いと思いますので、この委員会を積極的に活用していただければと思います。それでは、Web 側で何かご意見があれば、玉木さん、秋田さん、どうぞ。特にないですか？では、鈴木さん、どうぞ

鈴木委員

1 つ、いいですか。実は先ほどのお話の続きになりますが、現在進行中の活動の中で、石下地域に特化したものもあれば、常総市全体で進めているものもあります。その中で、個人的には今後の重要なキーワードとして『多文化共生』が出てくるのではないかと考えています。これを重点的に取り組んでいきたいと考えているんですね。すでに KPI の中にも含まれていることですが、行政のセクションで担当している方々もいらっしゃいます。ただ、実際にその取り組みがあまり市民に伝わっていないという現状があり、私自身もその点を感じています。この情報をどう伝えるかが重要で、市民目線、行政目線、そして企業目線を含めた形で進めていかないと、多文化行政に関する問題は今後、他の地域でも出てくる可能性が高いと思います。特に常総市は、50 以上の国からの人々が暮らしており、非常に先進的な取り組みをしていると思っています。これを 1 つの課題として、しっかりと進めていきたいと思っています。そのために、まずはこういった課題に取り組みたいという方々を少しずつ引き上げて、他の地域でも同じように取り組みたいという意欲のある方々と共に進めていければと思います。そのためには、行政や民間の力をうまく活用し、仕組みづくりを先導していただきたいというのが私の希望です。

会長

ありがとうございます。最後の先導していただきたいところが少し気にかかりました。というのも、この役所、市民組織、企業、そして市民個人との関係について、役所が一对一で対応するのは現実的に非常に難しいというのが現実です。市民や企業の数も膨大ですから。そのため、いかに中間支援組織をうまく活用するかが重要だと思っています。よく言われるように、共通のプラットフォームとして、市民組織や企業が集まる場を提供する組織が不可欠だと考えます。こういった組織を、ここにいらっしゃる皆さんで立ち上げることができれば、多文化共生というテーマについても、企業や農業の方々にとって有益だと思いますし、そ

のテーマが教育や福祉，文化，地域活動といった広範な分野にまたがることを理解してもらいやすくなります。例えば，ごみ捨てのルールなど，日常的な問題も含めて，すべてを巻き込んでいかないと，時間をかけて取り組んでいかないと，どうしても軋轢が生まれ，不幸な結果になってしまいます。ですので，関係者全員が一堂に会して，役割分担とスケジュールをしっかりと持ち，総合的に取り組むことが求められます。その際，もしそのコーディネートが役所だけで行われると，どうしてもパンクしてしまうと思うので，そこに中間支援組織がしっかりと入ってサポートすることが大事だと思います。ですので，私はぜひ鈴木さんをはじめ，皆さんに，このような中間支援組織を立ち上げるくらいの勢いでやっていただければと思います。それがなければ，役所側も対応しきれなくなるでしょうし，その中間のコーディネーターがいることで，全体の調整がうまくいくと思います。一緒にやりましょうという気持ちで，ぜひ進めていければと思います。

鈴木委員 先導してほしいという点についてですが，これまで私たちが活動してきた中で，最初の一步というのは本当に大事なところで，最初はどうしても皆さんに信用してもらえない部分があるので，ちょっとだけでも協力していただけないか，というお願いの意味を込めて言わせていただきました。少し仰々しい言葉を使ってしまったましたが，要するに協力してほしいということです。そんなお話です。はい，以上です。

会長 ということですのでぜひ後押しをよろしくお願いありがとうございます。中島委員いかがですか。

中島委員 ちょっと別の視点から意見を申し上げてもよろしいでしょうか。はい，9日の会議で担当からいただいたこの書類についてですが，少し意見を述べさせていただければと思います。まず，この KPI の設定についてですが，12月9日版を見た感想として，自分なりに思ったことがあります。まず，まちの創生に関してですが，ここにも書いてありますように，都市間交流やにぎわいの創出が目標となっています。ですが，単なる交流事業やイベントの数だけでなく，常総市のブランド価値をいかに高めるかが重要だと思います。その上で，設定された指標や施策が事務的にならず，市民が町の活力を実感できるようなものにする必要があると思っています。みんなでその方向性を考え，実行していくことが大切だと感じています。次に，人の創生に関してですが，ここに書かれていた「子育て満足度 16%」という数字を見て，現状を真摯に受け止めなければならないと思いました。この数字は，課題として

かなり重要だと感じます。また、関係人口から定住への促進という点では、山武市との友好都市締結や、東京都文京区とのつながりを活用していくことが一つの戦略だと思います。千姫様を通じた歴史的な縁などをうまく活用し、まずは本市のファンを増やすことが、最終的に定住や移住の土台作りになると考えています。そうした仕組みを作ることが必要だと感じています。最後に、仕事の創生に関してですが、やはり波及効果の最大化が重要です。道の駅やアグリサイエンスバレーなど、本市の経済を牽引する拠点から生まれる経済的な波及効果を、地元の農家や商工業の実質的な所得向上にどうつなげていくかが課題です。市内産業全体が潤う経済の循環を作り、それを KPI の到達点として意識して進めるべきだと思います。以上のような点を考えながら進めていければと思います。以上です。

会長

はい、やはり全体が相乗効果を生み出し、相互作用を引き起こさなければならないと思います。その中でも、道の駅というのは非常に巨大なプロジェクトですので、そこから地域の商業や農業といった活動が連動していき、その連携がさらに子育てやブランド価値の向上にもつながるというストーリーが重要です。例えば、地域振興や子育て、交流といったことを単独で進めるのではなく、全てが魅力的に感じられる物語としてつながることが大切です。人間は共感のメカニズムが働きますので、物語性があると感じることで、人々はその活動に魅了され、参加しやすくなります。単発的な KPI だけではなかなか人々は動きません。例えば、短期的に『子育て支援をします』というのは、関心を引くかもしれませんが、長期的に住み続けようという動機にはならないことが多いです。人々が求めるのは、子育てもあれば経済も地域交流もあるというような総合的な豊かさのバランスです。もちろん、それぞれの世帯によって必要なものは異なります。若い夫婦の子育て支援から、高齢者世帯まで、年齢やライフスタイルによって求めることが違います。そのため、各世帯に対してどう対応し、どう噛み合っていくかが重要になります。このようなストーリーを作るために、常総戦略課のプロジェクト同士の相互連携を強化する機能が必要だと感じています。中島委員がご指摘されたように、全体のブランド価値をしっかりと持ち、その中でプロジェクト同士が連携することは非常に重要です。その意識を持って取り組んでいただきたいと強く思いました。他にご意見はありますか。

横島委員

横島です。先ほど鈴木さんがおっしゃっていた多文化共生について、私も非常に関心を持ちました。常総市というと、いろんな外国の方々が住んでいるというのが一目でわかりますよね。街中を歩くだけで、外国のお店や、さまざまな国の方々と出会うことが

できますし、それが常総市の特徴として目立っています。一般の方々にとっても、これが常総市の個性だと思うんですね。だから、これを特徴として活かし、成功例を作っていくことが大切だと思います。現在、国の方では外国人排斥のような意見もたくさんありますが、常総市の計画を見ると、『多文化共生』というテーマがしっかりと打ち出されているので、私は非常に心強く感じています。ぜひこのテーマに取り組んでいってほしいと思っています。また、外国から来ている方々は、働きに来ている若い人たちが多くですね。高齢化が進む中で、実は若い外国人の方々が町の平均年齢を下げる大きな役割を果たしていると思います。私も防災の方で意見を出させていただいているんですが、皆さん「年を取ってしまって、いざというときに頼める人がいない」と言っています。そんな中で、若い外国人の方々が協力してくれると、非常に良いことだなと思っています。そのため、文化行政だけでなく、福祉や教育、さらには子供たちが異文化を学べる場を作ることとても重要だと思います。英語を話せる外国人がいて、教育や文化交流において大きなメリットがありますので、そういった部分も活かしていければと思います。そして、常総市を発信源にして、全国に広げていけたら素晴らしいと思っています。さらに、先ほど中島さんや先生からお話がありましたが、『ストーリー』という点についても非常に重要だと思います。実際にこの計画を読んでも、数字やグラフが多くて、正直、読む気が起きないことがあります。何を伝えたいのかがわかりにくい。ですので、先生が仰ったように、もっとイメージとしてストーリーを作り上げていくことが大事だと思います。それによって、市民の方々もわかりやすくなるでしょうし、共感を得やすくなると思います。イメージというのは非常に強力で、高市さんがイメージだけで当選したように、イメージ戦略はとても重要だと思います。なので、少し硬い印象があるかもしれませんが、もっと柔軟に、いろんなストーリーを常総市から発信していくことを期待しています。はい、以上です。

会長

ありがとうございます。やっぱり、食ってすごく大事ですね。常総市は食文化が非常に豊かで、多様な背景を持っていますし、それに加えて、多文化共生という点でも、茨城県内では最も多文化的な町だと思います。これをいかに魅力的で心地よい、価値のあるものとして演出していくかが大事です。結局、まちづくりというのは、同じ事象が起こっているとしても、それをどれだけ相手に響く言葉とストーリーで表現できるかが重要です。そうすることで、人々の関心を引き、交流を促すことができます。具体的に言うと、自治体としてどれだけサポートできるかで、リピーターになったり、さらに多くの人が参加してくれるようになります。これは連続的な戦略ですね。魅力的な言葉で引きつけて、実際に体験してもらい、交流してもらおう。さらには、町で休んでもらっ

たり、買い物をしてもらったり、イベントに参加してもらったりする。そうしたことを総合的に進めることで、町の活性化は進むと思います。まちづくりというのは、同じ目的を持っていても、その戦略づくりやブランディング、メッセージ発信のうまさで雲泥の差が出ます。政治家でもよく見られるように、イメージ戦略で大きな変化が生まれることがあるじゃないですか。あれと同じように、イメージをうまく作ることで、アテンション（関心）が集まり、お金も人も動きます。そこから新しい活動が生まれ、経済が豊かになっていきます。一番大事なのは、人々のアテンションを引くことです。今回の基本戦略でも、いかに常総市に関係する人々の関心を引き込むかがポイントだと思います。問題は、同じような資料でも、それを巧みに伝えているところと、そうでないところの差が大きいという点です。例えば、皆さんが作っている動画など、そういった手法でいかに若い人たちを巻き込むかが大切だと思います。はい、ありがとうございました。では、若者の意見をぜひこちらからもお聞きしたいと思います。青木さん、どうぞ。

青木委員

はい、今回が4回目の会議ということで、策定自体は今日で終わるかなと思っていますが、冒頭で会長がおっしゃったように、これからはより多くの民間企業と、市民の皆さんにこの事業を知ってもらい、一緒に参加してもらうことが重要だと感じています。そのためには、やはり『自分ごと』として感じられるようなインセンティブがあれば、さらに良いのではないかと思います。これだけの予算がつくことで、地域にどのような影響があるのか、また、子供たちが増えることで自分の暮らしがどのように変わるのか、そういった具体的なイメージを持つことができれば、市民もより関心を持ちやすくなりますし、参加もしやすくなると思います。先ほどもお話がありましたが、やはりストーリー性が大事だと思います。そういったものがあれば、この策定事業にもより多くの人が参加し、より良い結果が生まれるのではないかと感じました。

会長

ありがとうございます。おそらく、国の交付金に関するプロポーザルと一緒に作成するのは、非常に良いと思います。お金の流れについては、ルールを確認しないと分からない部分もありますが、例えば一部を委託したり、交通費や借金の支払いなどがある場合、それも当然考慮すべき点です。私も以前、防災のプロジェクトで大学と連携してやらせていただいたことがあり、その際、大学の学生に謝金を支払うなどしましたが、あれが結構良いインセンティブになります。そのような関係性を作ることが大事ですね。当然、企業や市民団体もプロジェクトの一員として関わり、具体的なモチベーションを巻き込むことで、活動がより実効的になり

ます。そのためには、プロジェクトチームを立ち上げる際に、最初から誰が何をやるのかを明確にし、国へのプロポーザル作成の締め切りや様式に合わせて、誰が担当するかを具体的に決めていくことが重要だと思います。私も自治体でプロポーザルを作る際、東京のコンサルが綺麗に書いてくれることが多いのですが、実際には自治体はその情報を提供し、きれいにまとめてお金を取るだけで、地域にはあまり根付かないことがよくあります。これを避けるためには、地域の企業やNPOと一緒に進めることが大切です。例えば、大学にも関係するテーマの専門家がいないかもしれませんから、その人たちを巻き込むことが有効だと思います。そういった形で、地域の力を活かしながら進めると、より根付いた形で実行できるのではないかと思います。では女性の委員の方もどうぞ。

荒井委員 荒井です。よろしくお願いします。皆さんのように難しいことはあまり分からないのですが、今回の会議資料を拝見して、常総市が「誰一人取り残さない社会」を目指していること、また「教育環境の構築」という点について触れられていました。その中で、個人的に感じたことですが、フリースクールのような選択肢が常総市には少ないように思います。そういった環境が整っていないと、特に困っている家庭の方が多いのではないかと感じています。ですので、市から出ている資料や施策に、もう少しそういった選択肢を増やすようなものがあれば、非常に良いのではないかと思います。私個人としては、ぜひご検討いただければと思います。

会長 ありがとうございます。もうすでに活動されてるものが色々と実際にはあるけれども、それが市の広報媒体にまだ載っていないということがあるのでしょうか。

荒井委員 かしのきスクールしか常総市内にはないのではというのが私の認識です。また、子どもが病気になったときに、病気でも預けられる場所が常総市にはないという印象を持っています。そういったサービスを充実させることができれば、市民としてはとても嬉しいと思います。あと、今日が最後だと伺ったので、少し言わせていただきたいのですが、多文化共生の話が先ほど出ましたが、私も少し難しい部分があってよく分かっていないのですが、もし税金が外国籍の方に多く使われるのであれば、日本の学生などに使ってほしいと感じることもあります。ありがとうございます。

市長公室長

いま委員さんが仰ったのは石下地区のかしのきスクールですね。お城の北側にある，市の教育委員会が事務処理をしていた場所です。確かに，現在のところ1ヶ所しかないのが現実です。もしこれを水海道地区にもという話があれば，そういった要望をいただいているということで，そういった声はお伝えしていきたいと思います。次に，病児保育についてですが，やはりニーズがあることは市長も認識しており，前向きに進めていこうとしています。しかし，病児保育を開設するには看護師さんなど専門の方々がいないと難しい部分もありますので，ちょうど昨日，医師会と話し合いを始め，現在進行中です。ニーズがあることは十分に承知しています。また，外国籍の方の問題についてですが，これから国でいろいろな対策が打たれる予定です。ただ，外国籍の方全員が問題を抱えているわけではなく，しっかり税金を支払っている方々も多くいらっしゃいます。一方で，ニュースなどで外国籍の方が問題を起こしているという報道があることから，そうした先入観を持たれることも理解しています。しかし，やはり，しっかりとマネジメントしていく必要があります。茨城県では外国人に関する特別調査委員会というものを作り，対策委員会も立ち上げています。その会長がうちの市長ですので，アンテナが高く，常総市がそういった問題に取り組んでいくことには力を入れています。また，先日，小野田大臣とお会いし，常総市長から要望書を出しました。常総市に外国籍の方が多く，必要な経費がかかるのであれば，国から地方自治体にその費用を補助するよう交渉しています。これから成果が出てくると思いますし，常総市独自でもさらに対策を練っていかねばならないと考えています。

会長

小林さんは市長公室長ですので，市役所のナンバー2，あるいはナンバー3にあたる立場です。ですので，小林さんの発言は非常に大きいですね。すみません，最後の日というのはそういう意味で申し上げたわけではないのですが，よく分かりました。ありがとうございます。おそらく，多文化共生の問題というのは，日本人側，つまり受け入れる側の協力の問題も非常に大きいと思います。もちろん，騒がしい，ごみの分別をしないなど，さまざまな課題はありますし，それぞれ重要な問題です。ただ，一番怖いのは，日本人側が余裕を持てず，相手のミスを見守りながら徐々に日本文化に馴染んでもらうという姿勢を失ってしまうことです。ここで拒絶してしまうと，そこで関係が断絶してしまう。ですので，日本人側の許容力を育てることは，実は非常に重要だと私は思っています。これは大学でもよく起こることです。外国人留学生の授業で、『その人だけ遅れてしまったらどうするのか』という議論がありますが，これは外国人に限った話ではなく，発達障害のある方への対応なども同じです。ですから，いわゆる合理的配慮を行い，同じ土俵に立てるまでは双方をサポートするということをやらないと，目線や意識が合わないんですよね。この“忍耐力”

をどう作っていくかが非常に重要です。形式的に授業を行い、『ごみの分別はこうしてください』と知識だけを教えても、実は全然進みません。お互いの良いところや悪いところを理解し合う時間が必要です。そういう場の設定が重要ですね。すみません、勝手なことを申し上げました。皆さん、よろしくお願いします。

前田委員 多文化共生が一つ掲げられていて、“アンコンシャス・バイアスを取り除きましょう”ということも含め、学校教育への支援や教育の強化を進めていきたい、という趣旨の記載がされています。おそらく、その部分が今回、市側としても焦点になるでしょうし、先ほど出ていたご意見とも重なる部分があると思いますので、その点については、ぜひ一緒になって取り組んでみてはどうでしょうか。そうすることで、常総市が、多文化共生の分野において、外国人も日本人も含めて、誰もが楽しく生活できる社会であるということが、たとえ証明という形でなくても、全国に伝わっていくのではないかという気がします。今、少し補足的に調べてみたところ、そのような内容が出ていましたので、共有させていただきました。ありがとうございます。

川島会長 おそらく、外国人の方々に『常総は住みやすい』と発信してもらうことが、一番効果があるのだと思います。本当にそうなんですよ。お客さんは、お客さんと呼びますから。ですので、非常に発信力のある方を何人か育てる、ということだと思うんです。かなり戦略的な話になりますが。いるじゃないですか。その言語も日本語も話せて、仲介役になってくれて、非常に説得力のある人。国籍別、あるいは言語別に、そういう方が重要なのだと思います。ちょっと勝手なことを申し上げました。だいぶ時間も過ぎてまして、話題も国の戦略の話になっておりますので、次の議題に移りたいと思います。次は『国の総合戦略の策定について』です。こちらについて説明をいただき、それも踏まえて、またご意見をいただければと思います。よろしいでしょうか。では、次の説明をお願いいたします。

(事務局　説明)

会長 ご説明ありがとうございました。すでに常総市で取り組まれているプロジェクトについての紹介がありましたが、何かご質問やご意見があれば、何でも結構ですので、お聞かせいただければと思います。AI を活用した教育支援という点についてですが、実際に

学校の先生方がどのように AI を活用して教育を支援するのか、その具体的な方法については相当な支援が必要だと感じています。具体的なツールや活用方法に関する支援がないと、実際に導入しても効果を上げるのは難しいですね。私も、15 年くらい前に GIGA スクール構想の話がありましたが、そのときも結局、先生方が非常に忙しくて、新しい技術やツールを受け入れて、それを生徒のためにうまく活用するという体制が整っていなかったため、機器を導入してもあまり効果的に動かないという問題がありました。根本的な問題として、教育の体制が整っていないと、AI を活用するのは非常に難しいというのが現実だと思います。ですので、そういった体制や支援をどう整えていくかが、課題になるのではないかと思います。何かご意見があれば、どうぞお聞かせください。

中山委員 常総市の教育委員会に所属しています。先ほど川島先生がおっしゃったように、市内の小中学校にまちづくり推進プロジェクトを取り込むというのは、先生方の働き方改革が進む中で、負担になってしまうことがあると思います。やはり、25 年度末の実績値が 0 というのは、仕方ない部分もあるのかなと感じています。私自身も学校訪問をしているのですが、子供たちがタブレットを使った授業を受けている様子を見て、本当に驚かされます。私たちの時代からは想像できないような素晴らしい授業が常総市の先生方によって行われています。そのため、AI に対して疎いとか、手を抜いているということは絶対にないと思っています。ですので、まちづくり推進プロジェクトを学校に求めるのは少し酷かなとも感じているのが正直なところです。

会長 国のプロジェクトというのは、ある程度こうした型にはまってきていて、自治体としても、その型に沿ったプロポーザルであれば予算がつきやすい。ただ、実際に事業を進めようとする、現場の受け手側がなかなかついてこられない、というのがよくあるパターンだと思います。同じ立場として、あまり強くは言えませんが。やはり、そこをつなぐ人材が必要ですし、先生方にも、AI を新たに活用して教えるためのスキルを身につけてもらう必要があります。ただ、それを個人の努力だけに求めるのは難しいので、かなりの支援が必要だと思います。具体的には、追加の時間や作業が発生する部分について、外側から支援しないと難しいですね。以前、ICT 化や情報化の推進の際には、非常勤教員を雇用するための予算措置などもありました。今もそうした支援はあるのだと思いますが、そういった仕組みがないと、現場はなかなか動かないのではないかと思います。何かご質問ございますでしょうか。

荒井委員 この授業，パソコンとかも使って授業参観で見ているんですけど，かなり先生によって使う・使わないの差が大きいと感じています。それで，私は地元が東京なんですけど，東京のほうだと，もうパソコンで全部やっていて，「じゃあこれやってみましょう」と言うと，みんながパソコンで入力して，その答えを全員分モニターに映して，「この子はこういうふうに書いているね」といった形で進めていると聞きました。それで，「そういうことあるの？」と子どもに聞いたら，「いや，全然パソコン使わないし」と言っていて，例えばインフルエンザなどで休んだときも，前はオンライン授業をやっていたけど，今は全くやっていない状況です。全体的に，あまり活用されていないなという印象があります。もちろん，パソコンで勉強することもあるにはあるんですが，タブレットも含めて，正直，忘れていっても特に困っていないように見えるという印象があります。以上，保護者からの感想です。

会長 中山委員，お願いします。

中山委員 それに対して申し訳ないのですが，どちらの学校なのかな，と思いました。私は学校訪問に結構行くのですが，今，東京でやっているとおっしゃっていたような授業は，実際に学校訪問の中で見えていますので，『まだやっていない』ということが，今ちょっと信じられないというのが正直なところです。ただ，授業参観については，保護者の方に発表の場を見せたいという意図もあるので，あまりタブレットを使っている印象はないかもしれません。私自身も中学生の子どもがおりますが，授業参観でタブレットを活用している場面は，あまり見たことがありません。一方で，教育委員として学校訪問に行く際には，タブレットを非常にうまく活用した授業をされている学校が多いので，その点については，この会議でも聞いてみました。

会長 前田委員，何かありますか。

前田委員 多分，今の常総市の教育現場というのは，まだまだまちまちだと思うんですね。ただ，今，常総市としては大きな予算をかけて，端末やドリル，それからネットワークの再構築といったものを，これから教育現場に取り入れていこうとしている最中です。ですので，その成果はおそらく来年，再来年あたりから出てくるのではないかという気はしています。文部科学省の端末にはドリル機能がありますが，これも実は，文部科学省の方針として，全国一斉に同じように取り組み，いわゆる到達度テストや，「どこまで

教育内容が伝わったか」，そしてそれを「どう改善していくか」という点まで含めて，コンピューターを活用した教育として導入が進められているところです。ですので，「もう少し我慢して」という言い方は適切でないかもしれませんが，少し待っていて，成果が出てくるのを見ていただければと思います。また，常総市の取り組みについても，ぜひ応援していただけるとありがたいです。全体として，例えば 8 割ぐらいの現場で活用されていれば「使われている」と言えると思いますが，5 割程度だと，まだ十分とは言えないという印象もあると思います。そのあたりについては，今後，常総市としても検討していく必要があるのではないかと考えています。

会長 ありがとうございます。他に何か，ウェブ出席の方はご意見ないでしょうか。秋田さん，玉木さん，もし何かあれば，お願いします。

秋田委員 AI まちづくり推進プロジェクトの中で，地域における新規雇用者数について，平成 24 年度末が 20 人，今年度末が 3 人となっている点と，AI 等の先端技術を活用した地域課題解決プロジェクトの新規実施数が各年度 1 件となっている点についてお伺いします。私の知識不足であれば申し訳ないのですが，具体的にどのような課題を解決するプロジェクトが実施されているのか教えていただきたいです。また，新規雇用者数についても，どの分野で，どのような形で AI 関連の雇用が生まれているのか，その点についても教えていただければと思います。

会長 ご質問ありがとうございます。具体的な中身について，情報ございますか。

事務局 こちらは商工観光課の方からいただいた数字を使っております，具体的な内容については伺っていないというのが実情でございます。申し訳ございません。また，秋田さんの方でまずは，コミュニケーションとして具体的に，ご確認させてください。

玉置委員 すいません。それでは，私の方から回答させていただきます。AI まちづくりプロジェクトと一緒にやっているホンダの玉木と申します。まず，秋田委員からいただいたご質問についてですが，新規雇用人数について，細かい数字までは把握していません。ここにはホンダグループで立ち上げた AI ベンチャー「ウイング AI ラボ」の雇用人数も含まれています。なぜこれを KPI にしている

かという、このまちづくりプロジェクトの教育プロジェクトは、お子さんたちの AI やデジタルに対する親和性を高めること、そして将来の働く選択肢として AI エンジニアという道も考えてほしい、という目的で立ち上げたものです。常総市に拠点を設け、エンジニアが活躍できる場所を作り、Uターンして働いてもらうことも狙いの一つです。若者が市外に流出する現状がありますが、ここに AI 人材、大学新卒で年収 800 万以上の人材が戻ってくことで、常総市の財政にも貢献できるのではと考えています。次に、地域課題解決プロジェクトの具体例ですが、現在、3 つのプロジェクトを進めています。まず 2024 年は農業プロジェクトです。ただ農業にロボットを導入するという話ではなく、ホンダが開発しているロボットや自動運転車で使う AI を農業に応用できないか、地元事業者や常総市と検討しています。例えば画像認識 AI を野菜に応用する、といった試みです。ただ、地元の事業者の方からは従来の方法の方が効率が良いという声もあり、議論を重ねています。もう一つは教育プロジェクトで、これは先ほどお話しした通りです。来年度は公共交通分野のプロジェクトを予定しています。具体的には常総市で自動運転車の技術実証実験を行い、市民の皆さんにどのように使ってもらえるかを、市や市民、関東鉄道などと連携して検討する予定です。先ほど先生方への負担についても話が出ましたが、この教育プロジェクトは先生方にやっていただく形式ではなく、むしろ負担を軽減するものです。ホンダのエンジニアやアルバイトの方が主体となって授業を行い、先生はサポートに回っていただく形です。また、デジタルデバイスの活用についてですが、例えばつくば市では生成 AI を授業に組み込んでいます。しかし、このプロジェクトは、子どもたちが実際に AI を作り、それがロボットや自動車を動かす「フィジカル AI」を体験するものです。単なる生成 AI 教育とは異なり、実際の仕事に近い体験を提供することを目指しています。今年度・去年度には小学生・中学生が実際に体験しており、小学 4 年生でも自動でロボットを動かす AI を作れる子が出てきています。こうした積み重ねが、お子さんたちの将来の選択肢を広げ、将来的には常総市に戻って働く人材の増加や、市の財政・市民サービスの向上につながっていく、そんな繋がりを常総市とホンダで協定を組み、他の事業者、地元の事業者を巻き込みながら進めていけたらと考えています。長くなりましたが、以上の説明となります。

会長

ありがとうございます。素晴らしい取り組みですね。そうした取り組みを、もっと発信していったらいいんじゃないかと思います。町に来ると、子どもたちが自ら AI を作り、その AI ロボットを実装するための動きが始まっている、といったことを発信すれば、皆さん『じゃあ、うちの子どもも』と思いますよね。そう感じました。促してはいるのですが、なかなか響かないんです。いや、すみません、やはりもっと発信したほうがいいと思います。実際、お母様方を含め、家庭の中でまだ十分に浸透していないと

いう印象があります。私自身も、どこか難しそうだなと思ってしまう部分がありますし、どうしたらよいのかと感じます。やはり、シティプロモーションをさらに推進していくことや、ある程度大きなイベントとしてメディアに取り上げてもらうなど、相当な工夫が必要ですね。大分時間も過ぎていますが、先ほど“年に1回”というお話がありましたよね。ただ、残念ながら私の経験上、往々にして、あっという間に1年が過ぎてしまい、『結局何をやってたんだろう』ということになりがちなんです。ですので、ぜひ鈴木さんをはじめ皆さんには、先ほど“コミュニケーションを取りながら”というお話もありましたし、本田さんはすでに一部動いてくださっているのです、それぞれでパートナーシップ協定を結ぶとか、あるいは『このプロジェクトをこのメンバーで進めていきましょう』というような、大まかな了解文書を作るとか、そうしたネクストアクションが必要だと思います。1年待っている間に、突然災害が起きたり、金融変動が起きたり、景気変動したりします。そうすると、自治体の職員の方々もそちらの対応に大きく割かれてしまいますので、組織体制もかなり不安定になりますよね。だからこそ、ぜひ次のアクションとして、具体的な“次の一歩”を取れるところから進めてほしいと思います。先ほど、プロジェクトチームを横断して進めるというお話もありましたが、そこに企業の方々や民間、市民の皆さんが、ある程度“自分ごと”として関わっていただけるような、最初の約束事が必要なのではないかと思います。簡単な文章でもいいので、そうしたものが必要ではないかという気がしています。そうした点も含めて、ぜひご検討を深めていただきたいと思います。すみません、まだご発言いただいていない方、どうぞ。

野村委員

先ほどの広報や関心を呼び起こす点についてですが、もちろんシティプロモーションや、私が現在観光大使として活動している『千姫様』のSNS（TwitterやInstagram）などを通じた広報活動は、常総市がかなり力を入れているのは、シティプロモーションを見ても感じます。ただ、実際に市民の方々がそういったSNSをどれくらい見ているかというと、正直なところ、あまり活用されていないのではないかと思います。そのため、常総市AIまちづくり推進プロジェクトやイベントの告知をデジタルに頼るだけでなく、アナログな方法でも広報を強化していく方が、もっとわかりやすく、市民に届きやすくなるのではないかと思います。例えば、非常にシンプルですが、ビラやパンフレット、ポスター掲示など、視覚的に目に入りやすい方法が重要だと思います。街中での掲示や、そういった地道な広報活動が効果的なのではないかと感じました。すみません、少しまとまりがないかもしれませんが、こうしたアプローチも検討すると良いのではないかと思います。以上です。

会長

ありがとうございます。本田技術研究所さんが来年度、公共交通に関連する市民イベントをいろいろと企画していると聞いていますので、色々仕組みられていると思うんですけども、結局、何て言うか、僕が神戸市と一緒に地域防災の活動をしている中で、自主防災組織作りを進めてきたのですが、結局、対面で地道に繰り返すしかないんですよね。その中で、少しずつ少しずつ、進んでいくうちに、やっぱり PR できる人数、いわゆるエバンジェリスト、普及を進めてくれるような方々が、一定数いないと動かないということが分かりました。ですから、プロジェクトごとに、そういった熱烈的な支持者や発信力を持つ方々を作り出すことが重要だと思います。あと、よくやる方法としては、ワークショップを開催して、「こんな講師が来ます」「こんなお話があります」「本田さんの最新プロジェクトを紹介します」「子供たちも体験できます」といった形で、定期的に告知していく。こういった地道な活動が不可欠だと思っています。その中で、場合によっては、東京などの目立つ場所で行うことも考えられます。もちろん、予算がかかりますが、費用対効果を考えた時に、いろいろと組み合わせて行くと効果的だと思います。例えば、今、流山市などは子育て支援で一定のブランドを作り上げていますよね。あのようなレベルで何かをやるためには、例えば TX の車内広告などを使って、思い切った手法を取る必要があるでしょう。そうしないと、恐らくイメージが変わらないと思います。ということで、残り時間も少ないですが、せっかくの機会ですので、何かご意見があれば、発言されていない方もぜひお願いします。

北村委員

皆さんのご意見や市の方からのご説明を聞いて、外国人との共生についても、改めて理解が深まりました。また、AI まちづくり推進プロジェクトの活動内容についても、以前はよく分かっていなかったのですが、秋田委員が質問してくださり、本田の玉置さんが詳しく説明してくださったおかげで、よく理解できました。私自身も Instagram はやっていますが、時々常総のことが投稿に出てくる程度で、自分から積極的に追いかけるほどではなかったもので、少し反省しました。本田さんが進めている取り組みがこんなに進んでいるとは、正直なところ気づいていませんでした。最近、市報を見ていると、以前よりも楽しく読めるようになったことに気づきました。市役所の皆さんの努力が感じられます。今までは市報を見てもあまり読みたいと思わなかったのですが、最近では読むようになり、いろいろな情報が得られることが分かりました。ただ、実際には市民の半分近くが自治会に入っていないため、市報が届かない方々も多いという現実があります。これは非常にもったいないことだと思っています。そこで、広報の方法や見せ方をもっと工夫すれば、市民の方々の協力を得たいと思っている方々が増えるのではないかと、先ほど川島先生のお話を聞いて感じました。そういった意味で、何かできる手立てを考えていければいいなと思っています。以上です。

会長

ありがとうございます。ちなみに、これできました、ワークショップはありません、決まり次第、皆さんにお知らせします。とは言いつつも、みんな本当にスケジュールがあるかどうかは分かりませんが、そういったことってありますよね。ちなみに、これ、議会にも報告されますよね。ある段階で議会の承認を得ることができれば、それで市としては決定になるはずですが。その後、何かのイベントに合わせて開催するのもありかなと思います。これ単体で人を集めるのはちょっと厳しいかもしれませんが、例えば大きなイベントのサイドイベントとして行うとか、そういう形にすれば、手間も少なく、結果的に人も集めやすくなるんじゃないかと思います。私も時間があれば協力しますし、皆さんも協力してくださると思いますので、ぜひその方向で進められると良いですね。それでは、5時が近づいてきていますが、岡野委員、何かご質問等ございますか。

岡野委員

皆様のご意見、いろいろと参考になり、本当にためになりました。心より感謝申し上げます。私から一つ申し上げたいことは、女性に関する PR について、もう少し力を入れていただけたらという点です。大変立派な内容の施策が出ているのに、それが市民一人一人に行き渡る方法、つまり、広報の方法がもう少し工夫できればと感じております。例えば、1つのテーマを定め、皆さんに集まっていただいて意見を出し合うような場を設けることで、より効果的な施策が生まれるのではないかと考えています。また、「まちひとしごと創生法」の目標についてですが、残念ながら少子高齢化を食い止めることはできていませんし、東京への一極集中も今も続いています。この現状を踏まえ、何が原因なのかを皆で考え、これを解決するためにどうするかを議論するのが、この「まちひとしごと創生」の目的だと思っています。女性に関する PR をもっと強化し、それを深掘りできるようなテーマを設定して、さらに効果的に進めていくことが重要だということです。ぜひ、今後の議論の中でご検討いただければと思います。

会長

ありがとうございます。やはり、市役所側でのテーマ設定は非常に重要です。みなさんに議論を任せていると、なかなか具体的なアイデアが出てこなかったりするので、ぜひ先ほどお話しされていたプロジェクトチームのようなものを作り、テーマ設定をうまく進めていただければと思います。また、成果が出た際には、その成果をしっかりと PR するために、ワークショップなどの形で市民に伝える機会も作っていただけたらと思います。私が特に期待しているのは、公募で参加されている鈴木さん、秋田さん、野村さんです。すみません、名前を挙げてしまいましたが、皆さんは充て職ではなく自発的に参加されているので、若者と接する

機会が豊富で、鈴木さんのようにすでにプラットフォームを持っている方々です。ですので、市民側のイニシアティブとして、例えば「週末にここで何かをやりますよ」という形で、もっと自由に取り組めるような動きが出ると良いと思います。また、市議会の承認などもあると思いますが、例えば6月議会を通った場合、その前に動き出すのが難しいかもしれませんが、それまでは市役所がこういった施策を進めているということを、早い段階で発信していくと、市民の方々に届きやすくなると思います。残念ながら、今の市役所の施策は多くの予算を使って良いことをしているにも関わらず、実際には市民一人一人に届いていないのが現状です。PRをしっかりとすることで、同じ予算を使っても、もっと多くの人に届けられると思います。鈴木さんや野村さん、秋田さんにはぜひ、そのあたりをリードしていただき、市民に向けて具体的な動きが見えるようになればと思います。もちろん、皆さんからのイニシアティブで動きが出れば、他の委員の皆さんもきっと反応してくださると思いますので、その方向でぜひ動いていただければと思います。最後に、こういった動きがなければ、実際には市役所の施策が目立たなくなってしまう可能性があると思います。1年後の会合の前には、何かしらの形で動きが見えるような状況になっていることを期待しています。時間が過ぎてしまいましたが、最後に何かご意見があれば、どうぞ。なければ、これでお返しさせていただきます。よろしくお願いします。

事務局

会長、また委員の皆様、本日は本当にたくさんの貴重なご意見をいただき、心より感謝申し上げます。おかげさまで、本日の議事はすべて終了いたしました。最後に、今後の予定についてご案内させていただきます。まず、今年度は計4回にわたって創業総合戦略会議を開催し、皆様にはご出席いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。先ほどもご説明いたしましたように、来年度も今回策定した総合戦略を振り返るため、再度会議を開催したいと考えております。その際には、ぜひご都合の調整をお願い申し上げます。

また、今日の委員報酬についてですが、報酬辞退の申し出があった方を除き、常総市特別職の職員で非常勤の報酬および費用弁償に関する条例に基づき、後日ご登録いただいた口座に振り込みをさせていただきますので、何卒よろしくお願いいたします。それでは、以上をもちまして、第4回常総市まちひとしごと創生総合戦略会議を閉会いたします。長時間にわたりご協力いただき、誠にありがとうございました。

(17時30分 会議終了)

上記の議事の正確なることを証するためここに署名する。

令和8年 3 月 31 日

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

会 長 川 島 宏 一

署名人 北 村 篤 子

署名人 青 木 大